

空気環境の測定のレポートについて

今回のレポートは、かなりできが良くなっているように思います。細々としたきまりなどについては、もはやほとんど指摘しなくてもすむようになってきました。完全に問題ないと言うわけではないですが。

- 1) 「はじめに」のところは、できるだけ自分なり理解を自分の言葉で書くように努力しましょう。
- 2) 「おんどとり」は、実は商品名です。機器名としては「小型温湿度データロガー」とでも言うべきでしょうか。
- 3) レポートに載せた図のみで本当に測定場所が読み手にわかりますか？
- 4) 風の流れを測定するのですから、窓の開閉状況を記入するのは必須です。あわせて開口部の面積などの情報をきちんと盛り込みましょう。さらに、本当は外部の風速・風向のデータもあると良いのですが・・・。
- 5) 見やすい図表を上手に利用して、読みやすい、わかりやすいレポートに仕上げるように努力しましょう。本文と図表は関連づけておくようにしましょう。
- 6) できるだけ、図表の説明（どんな図表か？）や見方、その意味などを解説して下さい。
- 7) 図表を引用した場合には、出典がはっきりわかるように書きましょう。
- 8) 相変わらず、単位を忘れている人がいます。実験レポートの場合、単位がないのは致命的です。
- 9) どのくらいの換気量が得られているか否かについては、例えば、換気回数や換気量の計算（大まかでもよいので）を行わないと、何とも言えません。是非、一步踏み込んで、これらを計算してみてください。ちなみに、 $(\text{流量}) = (\text{断面積}) \times (\text{流速})$ です。
- 10) ホルムアルデヒドの濃度の 0.0001ppm の差は、誤差の範囲と考えても良いでしょう。そこまですら、検知管から読み取れますか？
- 11) なんでもかんでも、レポートに載せれば良いと言うわけでもありません。基本は、第三者が追試に必要な情報を必要最低限載せるという姿勢です。とりあえず、迷ったら載せておくという方針もあり得ますが、多くの場合は、枚数の制限などがあるものです。